

建築用金属内外装材の製作・工事業、フロント（本社・東京都新宿区、社長・松川博行氏）は、工場から出荷前に錆（さび）を熟成させる耐候性鋼の仕上げ技術「RUSTY R」を確立した。初期に流出する錆の発生期間を大幅に短縮。施工後に周囲を汚す初期錆の課題を解消するとともに、錆本来の美しさを生か

「錆」熟成の仕上げ技術を確立 初期の流出期間を大幅に短縮

耐候性鋼

して、建築物や外構向けなど耐候性鋼の用途拡大につなげる。

「RUSTY R」では、工場で耐候性鋼のミルスケール（黒皮）を除去し、同社が開発した特殊な錆出し剤で瞬間的に錆びさせる。続いて2カ月以上の熟成期間を設け、屋外で天日と風雨にさらしながら錆を育てることから「防錆」ならぬ「RUSTY R」ならぬ

建築物や外構など用途も広がる



は、錆を意「佇まいの経年変化を味する英語 愉しんでもらう」（同の形容詞社）。

『熟錆（せい）』を実 応じて色に渋さや深み 現。一連の工程を経て、 が増す錆ならではの美 初期に流出する錆を極 しさを目指すデザイン ナーが増える中、錆び 「生きた錆をまとい、 力最小化した状態の耐 ても朽ちず、メンテナンスが不要な耐候性鋼の新しい建材」として 入する。 「RUSTY R」の特性を生かしながら 提案していく。

と、「生」 これまで使用箇所が を差す「R 限定的だった耐候性鋼 AW」の頭 に対し、「RUSTY 文字を組み R」は、建築物の 合わせて名 構成部材や、パネルや 付けた。時 サッシ、フェンスとい 間の長さにつ った外構分野など幅広 く利用できる。住宅や 教育施設などで採用実 績があり、同社では

